



故石川芳次郎先生

私の生涯に大きな感化を与えた
最も尊敬致している先輩石川
芳次郎翁に突如としてお別れしな
ければならぬことになりましたの
は、何としても悲痛の極みであります。
初めてお目にかかったのは

私が京都大学電気工学科に入学し
た明治四十二年の秋であります。
翁は既に卒業前の最高学年に在学
中で、学生でありますながら、京都電
灯会社の技術職員として実務を取
つて居られ、どういう因縁が新入
学生の私に特別の懇情を賜り、よ
く同社の発電所で実習訓練をさせ

本号は、故石川芳次郎氏の追悼号としてこの関係の深かった方々よりご寄稿を頂きました。鳥養会長は二月二日の京都市公葬の際友人代表として弔辞を述べられましたのでこれを引用さして頂きました。

弔

辭

洛友会会长 烏 養 利 三 郎

洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛 友 会

ていただきました。卒業後は京都電灯へ入社しないか、と懇切な勧誘を受けたこともありました。私は翁の後輩下僚として電灯事業に携ったかも知れなかつたのであります。健康の都合で、それは実現しなかつたが爾来六十年の長きに亘って、私は翁の後を追いつづけ、席を同じうする機会が多かったです。人間としての私は多く翁から与えられた影響によつて作られたところが少くないと信じて居ます。

翁の技術界、電力界、産業界、文化国際親善等に残された広く且偉大な功業は永遠に伝え残されるものであります。私としては特に感謝致したいのは、終始科学技術の振興と後進の誘掖に挺身して下さったことであります。翁程この方面に情熱を傾けられた者は恐らく少からうと思ひます。京都大学電気工学科同窓会々合にはよく出席せられて後輩を激励せらるゝ二、〇〇〇名を超ゆる同窓生中翁の聲咳に接しなかつた者は殆ど無かったであらうと思います。今翁を失うのは誠に惜しみても余りあるところであります。吾等は翁が残された功業の跡を常に回顧しつつ、遺徳に背かざることを盟い以て静かなる永遠の眠りにつかれることを希い上げます。

	明治14年11月	東京都港区で生れる	昭和35年10月	科学技術普及奨励の功により科
明治43年7月	京都帝国大学工学部電気工学科卒業	昭和41年11月	株式会社京都新	学技術庁長官賞受賞
昭和16年5月	京都電灯株式会社技師	昭和36年1月	財團法人國際文化振興会理事	
昭和23年1月	京都市公安委員会委員長	昭和36年3月	京都府立京都	
昭和25年3月	京阪電氣鐵道株式会社取締役社長	昭和36年5月	觀光連盟ならびに京都市觀光協	
昭和24年11月	京阪電氣鐵道株式会社監査役・同顧問	昭和40年5月	京福電氣鐵道株式会社取締役会	
昭和26年9月	日本國際連合協同理事・京都本部長	昭和40年10月	米國エジソン財團理事	
昭和32年11月	運輸大臣より交	昭和37年12月	京都府立京都	
昭和33年8月	通文化章受章	昭和39年11月	市長	
昭和33年12月	電氣事業の功に	昭和40年10月	京都市名譽市民	
昭和41年8月	より藍綬褒章受	昭和40年11月	同志社大學名譽	
昭和44年1月	京都・パリ友情	昭和41年8月	文化博士	
昭和34年12月	盟約協議會長	逝去	計画審議會委員	
委員會委員長	京都・ボストン	を賜わる	叙從五位・銀杯	

大先輩石川芳次郎さんを悼む

名譽教授
大正六年卒 松田長三郎

わが電気工学教室出身の大先輩であり、電気界の耆宿であられた石川芳次郎さんは、去る一月二十七日、東京よりご帰京の直後、忽然として急逝せられた。晩年には死んでいるような死に方をしたいと言つておられたが、正にご希望通りの大往生であられた。

電気教室の第一回の卒業は、明治三十四年で、石川さんは明治四十三年のご卒業であるが、三十四年、三十五年、三十六年、三十八年、三十九年、四十二年の卒業生は悲しいことに全部物故せられ、明治年代の卒業生で、ご存命で、しかも尚ご健康で活躍しておられる先輩は少いが、石川さんは正にこの寥々たる数少ない先輩の人であられた。ご卒業と同時に京都電灯株式会社にご入社、爾來約六〇年の長きに亘つて、終始一貫電気事業、電鉄事業に生涯を捧げられた。私は大先輩として、且又財団法人京都技術科学館並びにその後身たる財団法人近畿地方発明謝を捧げて来たが、電気界のみなセントーと共に運営して、いろいろお教えを受け、常に尊敬と感謝を捧げて来たが、電気界のみな

らず、財界・文化・国際社会等、各方面の方々から尊敬され、讃えられ、惜しまれて忽然として他界せられた故人は、真にかけ替えのないユニークな方であられた。明治、大正、昭和の三代に亘る巨星墜つの感一入深い。

世には学徳・人格・識見に優れた世の師表と仰がれる人も多い。石川さんは正にこういう方であられ、実に熱誠の人、信念の人、勇敢の人であられた。ご専門は勿論のこと、概博な英知は、熱誠あふれる弁舌と相俟つて信を、人の腹中におくという有様であつたし春風駘蕩たる温浴の中にも、毅然たる古武士的風格を備えておられた。

大正初年、京都電灯で、動力や光・熱の電化等、この先駆的事業を縦横に画策し、他に卒先してみごとその目的を達成せられ、全国から見学に見える盛況であつたしその後街路灯として一世を風靡した鈴蘭灯は、石川さんの発案で、京大建築教室の武田五一教授のデザインによるものであった。また照明学会創立二十周年に際し、関西支部では「日本古灯器大観」

を編集大成したが、これにも石川さんの多大のお骨折りを煩わされたとき、当時絶対的の権威者であった進駐軍に対し、屢々東上して水力電源を各社に分配して、電力会社が一貫して経営できるように思はれていた。昭和九年エジソンの炭素電球発明五〇年記念の際には、清浦伯爵主宰のもとに、炭素繊維ゆかりの地、京都南郊石清水八幡宮に、一二学協会の協賛の下に、エジソン記念碑を建立し、或はエジソン彰徳会を創立するなど、感謝感恩の至情から、常に先駆的・主導的役割を果されていた。また古くは家庭電気知識普及の重要を認め、後藤新平子爵を総裁として家庭電気普及会を創設し、或は科学技術振興の必要を痛感せられて昭和七年、財団法人京都技術科学館の創立に尽力せられた。これは創立当時以来、理事長は歴代の京都府知事であったが、終戦後は石川さんが理事長であり、その後科学技術庁の勧説により発展的改組して現在の財団法人近畿地方発明センターとなつたが、改組後も引き続

て、非常にお忙がしい日常を過しておられたから、もしできていなかつたら取り返しのつかぬことだ、惜しみても余りあることである。最後に一般向のご講演は、昨秋N.H.K.の人生読本で、三回に亘り下さるよう、おすすめしていただき、理工大学の生き字引のような方であられたから回想の手記或はテープをとっておられた次第であった。

石川さんは、我が電気界の生き字引のような方であられたから、電熱などは、創業時代の松下幸之助さんなども常に参考にせられた由聞いたが、松下さんも、石川さんはいつも深い敬意を払つておられたことは、側で見ていて誠に羨ましいことであった。

京都電灯時代著された「工業電熱」などは、創業時代の松下幸之助さんなども常に参考にせられた由聞いたが、松下さんも、石川さんはいつも深い敬意を払つておられたことは、側で見ていて誠に羨ましいことであった。

去る一月、裁判所長や検事正なども同席の会合であつたが、深く時局を憂い、大学や裁判所や検察院などに対しても熱烈な希望を披瀝せられ、暴力学生の横行する無秩序の恢復を訴え、多大の感銘を与えたことは、尚耳底に新らしく。多年京都市に尽くされたご功績に対し、実業界からは唯一一人の京都市名譽市民に推されておられたが、去る二月二日、同志社栄光館において、京都市公葬の礼を以て厚く葬られた。富井京都市长

は一四〇万市民とともに、石川さんの京都市に尽された偉大な功績を讃え冥福を祈られた。越えて三月二日、大本山相国寺墓地に納骨の儀を執り行われ、この塲域に安らかに鎮まり給うた。目を閉じる

石川さんの思い出

大阪工業大学教授
大正九年卒

林 堅太郎

と在りし日の事ども思い浮かんで感謝恩情の情、愈々切なるものが有る。意を尽さないが、思い出の一端を記し、謹んでご冥福をお祈りする次第である。

合掌

私は大正十三年以來、石川さんの部下として勤らいて居たので、石川さんには数々の思い出があるが最近相国寺で石川さんの納骨の法要に列席して一層その感を深かめたものであります。

死ぬまで働くのが理想であると人々がよく云います。私もそれが理想として毎日何處かで講義をし或は電気主任技術者各種学校会社顧問として出歩いて居りますが果して理想通りの生き方死に方が出来るか。然るに石川さんは死なれる其日の夕方迄勤らいておられたのだから、石川さんが平生口にして居られた全く理想的な死に方をせられた、而かも死なれる直前は死ぬと云う意識さえもなく人間の一生を終えられたのであつた。

昨年十一月石川さんが米寿を迎えたので、旧京都電灯の部下が相寄り、米寿のお祝をしようとしたが

相談し、その旨を石川さんに話したところ、石川さんは僕は人生に節をつけるのは嫌いだノンストップで生き抜きたいと云われた相だが、旧部下のたっての願から承諾を得て、旧京都電灯の講堂、現関電京都支店の講堂で盛大な米寿の祝賀会を催し、東は東京、北は北陸、西は九州と云う風に各地から二百十人の参集者で、昭和十六年三百十人の参集者で、昭和十六年旧京都電灯解散以来はじめての多人数の会合であった。石川さんは非常など満悦で、席上、私も旧役員を代表し祝詞を述べ、其中で拙い次の和歌を朗詠したのであります。「行く先になおも夢あり縛綿と八十八の峠越えても」と。勿論当時は非常にお元気で後日石川さんはからこの拙い和歌を記念にするから色紙が何かに書いて呉れとのご希望がありお届けしました。又

当日の世話人からも先の祝詞の原稿を送るようとの話があったのであります。希望がありお届けしました。又

私は子供達の中学校時代にはよく石川さんのご苦労のことを話してやり、石川さんは八年の間まことに勤務され、その傍ら中学校と高等小学校、大学に学ばれ明治四十三年京都帝国大学電気工学科卒業されたのであるが、当時は何れの学校も昼間丈けであつたため、石川さんは夜は発電所又は変電所に勤務せられ、昼は学校に行かれると云う全くの勤労学生、いや今

の勤労学生よりもっとときびしい勤めであった。いやもつとひどかったのは当時の変電所の勤務は二交代制で而かも石川さんは学校の関係から常に夜勤であり、今

のよう夜中仮眠の設備はなく不寝番が原則であったから真夜中に椅子にもたれるか、それらを

出来るだけ金を出させないで使えば出来ることは出来るだけ何時までも使用すると云う無駄をなき精神だったからであつたと思う。私等も知らず知らずの間に斯様な精神で教育され、会社第一で会社の支出を出来るだけなくするため自分の努力では古い在庫品を工夫して再利用すると云う風に心掛けたものであった。従つて器具や装置や大型の有名人の若かりし時の苦労は想像も及ばない所と思う。

私は子供達の中学校時代にはよく石川さんのご苦労のことを話してやり、石川さんは八年の間まともな寝床には寝られなかつた位ご苦労された本当の立志伝中の人があった。だからおまえ等も石川さんのように苦労しなければ本当の人物にはなれないぞと教えたものだった。

今日印象として残る石川さんのお話の一部に「僕が変電所に勤務していた頃、よくスイッチが熱をもつことがあった。その時には筆の先に水を含ませて一晩中熱をもつておるスイッチを冷やしたものがだつた」と云うことであった。今頃の人達にそんな話をすれば或は何と馬鹿なことをされたものだと思うであろう。勿論今であれば

そのような熱をもつような容量の不足するものは早く取り替えられたらよいのにと思うだろう。

然しその代に石川さんは会社に

寄せ集めて横になつて仮眠されたのである。勿論仮眠と云つても十二時頃まではそれさえ許されず、或は交代して起きておる時睡むくことであろう。通知を受けた時は何かの間違いじやないかと疑つたことであった。納棺の時の石川さんのお顔は遂最近見た時のお顔と少しも変わつておらず、密葬、市葬があつてもまだ石川さんの死の実感が湧かなかつたのであるが、二月一日納骨の法要が當まれ、墓に納骨されるのを見て始めて石川さんの一生が終つたのだと感じた。

石川さんが旧京都電灯会社に入社された時は一電工としてであつたと云う。伏見火力発電所の建設に従事されたり、変電所に現業貢献されたり、その傍ら中学校として勤務され、その後小学校高等小学校、大学に学ばれ明治四十年京都帝国大学電気工学科卒業されたのであるが、当時は何れの学校も昼間丈けであつたため、石川さんは夜は発電所又は変電所に勤務せられ、昼は学校に行かれると云う全くの勤労学生、いや今

の勤労学生よりもっとときびしい勤めであった。いやもつとひどかったのは当時の変電所の勤務は二交代制で而かも石川さんは学校の関係から常に夜勤であり、今

のよう夜中仮眠の設備はなく不寝番が原則であったから真夜中に椅子にもたれるか、それらを

出来るだけ金を出させないで使えば出来ることは出来るだけ何時までも使用すると云う無駄をなき精神だったからであつたと思う。私等も知らず知らずの間に斯様な精神で教育され、会社第一で会社の支出を出来るだけなくするため自分の努力では古い在庫品を工夫して再利用すると云う風に心掛けたものであった。従つて器具や装置や大型の有名人の若かりし時の苦労は想像も及ばない所と思う。

私は子供達の中学校時代にはよく石川さんのご苦労のことを話してやり、石川さんは八年の間まともな寝床には寝られなかつた位ご苦労された本当の立志伝中の人があった。だからおまえ等も石川さんのように苦労しなければ本当の人物にはなれないぞと教えたものだった。

今日印象として残る石川さんのお話の一部に「僕が変電所に勤務していた頃、よくスイッチが熱をもつことがあった。その時には筆の先に水を含ませて一晩中熱をもつておるスイッチを冷やしたものがだつた」と云うことであった。今頃の人達にそんな話をすれば或は何と馬鹿なことをされたものだと思うであろう。勿論今であれば

そのような熱をもつような容量の不足するものは早く取り替えられたらよいのにと思うだろう。

然しその代に石川さんは会社に

のたまものだと思われる。

石川さんは部下の教育指導は非

常にやかましかつたが、そのお蔭

で知らず知らず沢山のよい役立つ

後輩、仕事を徹底的にやる部下が

得られたと思います。

昭和十二年配電統合後約一年間

京都支店長をしておられたが、そ

の後京福電鉄会社の社長として専

念せられ石川さんの豊富な経営手

腕によって非常に隆盛な会社にな

ったのであるが、終戦後労働問題

が盛んになり、大部分の職員が労

働組合員となり、春秋何回かの組

合との団体交渉の矢面に立れたれ

体的に殊に精神的にご苦労された

ことはあたら立派な正宗の名力を

菜葉庖丁として使い、有為な人間

国宝とも云うべき石川さんを勿体

無いことご苦労させられると私

は常に痛感して居たのであった。

幸に昭和四十一年から全く事業

の第一線から退かれ関電京都支店

に一室を借り受け石川事務所を設

けられ、他から何等の束縛を受け

られることなく社会のため存分活

躍を計画せられ昭和四十二年には

ロータリ世界大会が欧州で開かれ

た時、日本の会員の团长として欧

州に行かれ序に各国の工業情況を

視察せられる等、社会事業の結に

つかれ果しない大いなる夢をいた

いて居られた石川さんが突如としてこの世を去られたことは大いな

る星が急に消滅した淋しさを感じ

るものであります。

旧京都電灯には営業担当の石川

常務取締役と工務担当の山本和七

常務取締役（十年程前に死亡）が

居られた。山本さんは非常に口数

の少い人で、従つて公式の会合や

他の会社関係との交渉事等にはあ

まり出席されず、私が代行する場

合が多く、仕事の面でも殆ど干渉

がましいことはせられず、必要

があれば自分で計算尺を用いて自

分でやられる。従つて部下にこま

かいことまで命令したり注意され

たり或は指導されるようなことは

少かつた。然し酒の出る宴席では

不斷に似ず非常に愉快な上司で從

つて酒と一緒に飲む機会の少い部

下にとては非常にこわがられた

上司であった。

处が石川さんは交際も広ろく話

もすきもあり、又上手であり仕

事の面では何一つ知られないこと

はない程の見識をもつて居られた

から従つて部下にはどつちかと云

えればやかましい上司であった。

然し非常に暖かいが然し嚴父に

接するような人であったが、京福

電鉄の社長を部下に譲つて会長と

なられた頃から父に接するよりも

やさしい祖父に接するような感じ

をもつようになつたのは今から考

えれば綿綿として居られるように見えたのが実は所謂老境に入られたのだったのであったろう。

石川芳次郎氏を憶ぶ

関西電力株式会社
昭和三年卒

加 藤 博 見

私が石川さんに最後にお目にか

かったのは昨年の十一月十日に京

電会（旧京都電灯の会）主催で石

川さんの米寿のお祝の会を開電の

京都支店の建物の七階で開いた時

でした。石川さんの人徳を慕つて

集つた二百数十人の元京都電灯社

員の方々の前で、私は発起人代表

として石川さんが永年電気事業界

ならびに交通事業界に尽されたご

功績をたたえ百才迄も永生きして

下さいと挨拶をしたのでした。石

川さんは非常に元氣で持病のせ

ん息もなおつたし、この調子だと

百才迄生きられそうだと言つてお

られたのでした。それなのにそれ

から二ヶ月余り経つ一月二十七

日にはもうお目にかかれないので

なつてしまわれ今更世のはかなさ

を感じずにはいられません。一月

二十七日の午後お宅に弔間に参り

石川さんの安らかな、しかし永遠

に眠つておられるお姿にお別れを

しました。ほんとに安らかな大往

生のご様子に手を合わせてご冥福

を祈りながら心からご生前のお札

を申上げた次第でござります。

私が始めて石川さんにお目にか

されました。それから昭和十七年配電統合になって関西配電になるまで私は村井さんを通じて石川さんご薫陶をうけたわけです。

調査部では内外の電気事業の資

料の蒐集、電気料金制度の研究、

供給規程の改正、他の電気事業会

社の合併、社内各部の考查、担保

付社債の発行等会社の主な仕事は

全部ここで企画され実行したもの

です。私はここで仕事の内容を覚

えた上、仕事のやり方をたたき込

まれたのです。毎日の勤務は居残

り続きで夜は九時頃迄、祭日も日

曜も殆んどないという勤務状況で

徹底的に仕事に打ち込み、計画を立

めその他の事務関係を担当しておられました。私は技術出身で

したので入社後規劃係という係に

配属され、四、五年間は送電線、

変電所の建設をやらして貰いました。昭和七年だったと記憶してい

た。昭和七年ですが村井貞三とい

う方が部長だったのです。この調査

課乃至調査部が石川さんの「ブレ

ーン」で欧米に數回洋行された石

川さんが会社の基本的な企画運営

に必要だということで創設された

課乃至調査部が石川さんの「ブレ

ーン」で欧米に數回洋行された石

川さんが会社の基本的な企画運営

に必要だということで創設された

課乃至調査部が石川さんの「ブレ

ーン」で欧米に數回洋行された石

川さんは全く先見の明があつ

たと思います。私は調査課に配属

す。

ここで、石川さんのやられたこと

とではんとに偉い方だったと思う

ことを二、三ご紹介して頂きま

先ず電気料金のことですが、石川さんの著書の「電気料金制」にもある通り現在の電気料金の原価主義並びに各種別に原価を分配する計算方式は既にその時に石川さんが考へられておったものです。又、熱の電化を計画された当時電灯が一KW一〇銭であったと思いますが、電熱に対しては一KW H四銭の特別料金の申請をして家庭並びに工業用の電化に努力され四年間で一万KWの需要家が出来て一KWの炊飯器が三〇〇〇戸に使用されたほどです。京都の三条寺町の角に電熱の「すきやき」屋があつて三嶋亭といつて京都の名物であつたことも当時の京都を知つておられる方は記憶に新たなことに存じます。

動力も大正の前期には蒸氣機関によるもののが多かつたのです。当時京都には一〇〇〇馬力以上のスチームエンジンがあり、煙突も営業部を担当された石川さんは根気よく需要家を廻られ、動力を電化することに奔走されました。その熱意とご努力が実つて一年余りでこれを電化することが出来、電力に新しい市場が開拓されたのみならず京都市が再び「ホワイト、シティ」として甦ったので煙と公害を退治した石川さんの功績は当時の京都市民からも大いに感謝されたそうです。

又、石川さんは、今から三十年前に自分の乗用車に電気自動車を使つておられたのです。公害といふことよりもあらゆるものに電気を利用すべきだという意気込みと、當時お元気だった鉛蓄電池の発明者島津源藏氏の推奨もあつたと思います。最近、公害で喧しくなつて世界でその改造に血眼になつておる電気自動車が三十年前に石川さんによつて使用されておったことが研究を受けついでおられること全く敬服の外ありません。

次に、今京都駅前にある関西電力の京都支店のビルですが、この建物が石川さんと村井さんの「コンビ」で、計画設計されたものです。このビルは昭和十二年に出来ておりますが、まだ京都駅前に立ておりましたが、もう三十年も経つたもので、もう三十年も経つた姿を誇示しております。この建物の特色は京都駅の方から見て逆のし字型になつて裏を駐車の広場にしたこと及び冷暖房を井戸水を使つて夏冬同じ設備で冷暖房の効果をあげ得ること等で京都駅からお悼み申上げ、偉大なご遺憾をされたのであります。

石川さんはまた、京都電鉄を持つ京福電鉄の経営に当られました。京都の叡山線では觀光都市京都のため本邦最初の空中ケーブルを建設され又、福井大震災の時には京福電鉄福井線が全線にわかつて大きな被害を受け、その後に非常なご苦労をされたのであります。昭和三十一年に交通文部省によって立派な建物に見えるばかりでなく、今でも冷暖房の具合は從業員に喜ばれています。これも

昭和十七年配電統合とともに私は石川さんの下を去りましたが、石川さんは関西電設立後は理事並びに初代京都支店長として統合会社の基礎固めに採配をふるわれました。殊に戦後の電力再編成に際し公正な立場から水力電源を各社に配分して電力会社が一貫經營できるよう非常に努力をされました。このご尽力が当時の深刻な電力不足をのり切り、その後の関西経済の復興、発展にはかり知れない貢献をされたのであります。

石川さんはまた、京都電鉄を持つ京福電鉄の経営に当られました。京都の叡山線では觀光都市京都のため本邦最初の空中ケーブルを建設され又、福井大震災の時には京福電鉄福井線が全線にわかつて大きな被害を受け、その後に非常なご苦労をされたのであります。昭和三十一年に交通文部省によって立派な建物に見えるばかりでなく、今でも冷暖房の具合は從業員に喜ばれています。これも

京都のためにお忙しい身で各種団体や京都にある学校のお仕事をお受けになり、ご活躍になります。昭和四十年京都市から京都名誉市民の称号を受けられ、今回の葬儀も市公葬として百四十万市民に惜しまれながら同志社栄光館に於て厳かに執行されたことを以てしてもその偉大なご功績を偲ぶことができます。

このように石川さんは明治、大正、昭和三代にわたつて活躍された偉大なる事業家であり、経営者

に對する私の追憶を想い出すまことに書き綴つて一文を草した次第です。ご判読賜わりましたら幸に存じます。

故 石川芳次郎 大先輩を偲んで

京大教授 昭和十三年卒 大谷泰之

故石川芳次郎先輩のご急逝を心からお悼み申上げ、偉大なご遺憾を偲びつつ、多くの輝しいご功績の中から教室に直接關係のあるお仕事についての思い出を教室在職教官の一人として申述べることにしたい。

先ず石川さん(失礼ではあるが多くの後輩がこう親しく呼ばせて頂いていたので敢えて石川さんと書かせて頂くことにする)は洛友会の創設以来の大恩人であったとともに、永年にわたりて電気関係教室の教官在学生にとつても忘れ難い方でした。戦後初期の京都在現したもので、私も時々京都を愛された方でした。昭和二十年に交通文部省によって立派な建物に見えるばかりでなく、今でも冷暖房の具合は從業員に喜ばれています。これも

あります。その時代の行方を見抜く慧眼と行動力また、創造への情熱にはほんとに敬服のほかない 것입니다。

八十八才まで生きられたので年には不足はなかつたと思います。私も石川さんのご遺志を繼いで日本発展のため、人類の幸福のため全力を尽し度いと思います。

洛友会からご依頼により石川さんに對する私の追憶を想い出すまことに書き綴つて一文を草した次第です。ご判読賜わりましたら幸に存じます。

の高邁なご人格からにじみ出る慈愛に満ちたお話を一同ひきつけられ、時にはもつとお伺いしたいと思うことも度々あった。とにかく学生時代に石川さんのご声咳に接した洛友会員は二、〇〇〇名を越えるものと思われる。

次に石川さんは昭和十五年から四年間講師として“電力管理”的講義をして頂いていたが、その豊かなご経験を通して電力事業の現状と将来についてお話をされ、時には学生一同にご馳走をして頂き教室で聞けない人生訓話を承った諸君には何よりの思い出となつてゐる。

筆者も学生時代は勿論教室に奉職して以来、三十数年の永きに亘って石川さんには色々面でお世話になつたり、またお手伝いさせて頂いたり懐しさで一杯であるがその思い出の二、三申述べたい。

先ず昭和二十三年に教室の創立

五十周年記念授業会が組織され、

主として教室の各種実験研究設備

のほか記念講演会、祝賀会の開催

名簿の発行など多くの記念行事が行なわれたが、その節も石川さんには会長をお引受け頂き、お忙しい中にも拘らず、多くの会合にご出席頂いただけでなくいつも適切なご指示を与えて頂き、終戦後の混亂期における教育と研究に多大の

ご尽力を頂いたことも今更のごく思い出される。その行事としては二十三年十一月二日本部図書館階上大広間での記念懇親会、二、三の両日の記念大講演会、学生の

協力による教室の公開と新製品展示会などのほか、石川会長の“電

気工学の現状と将来”と題する記

念ラジオ放送などが行なわれた。

前記懇親会の席上石川さんは、テープルスピーチは三分間に制限し

て多数の参会者が語り合う機会を

もてるよう説かれたことも思い出

される。それから同年会員名簿と

して従来の懇親会名簿に元電気工

学講習所卒業生の名簿を加えたも

のが発行されたが、これは四年後

の洛友会の発足に際して大いに役

立つたのである。

次いで昭和二十六年十一月鳥養

先生の総長ご退官に際して鳥養先

生記念事業会の実行委員長として

石川さんは大変なご尽力を頂い

たこともついこの間のことのよう

に思い出される。

それから昭和二十七年十一月洛

友会の創立に当つて、石川さんは

同窓会創立準備委員会委員長とし

て多大のご功績を残され、その後

も副会長さらには顧問として數々の

努力添えを頂くなど洛友会の大恩

人であったことも会員の皆さんと

ともに思い出される。

以上石川さんの懐しい思い出の

一部を述べさせて頂いたが、終りに石川大先輩のご冥福を心からお

祈り申上げる次第である。

石川芳次郎先生が去る一月二十

七日卒然としてご逝去になり、再

び温容に接することができなくな

つたことは返す返すも悼ましい限

りであります。昨秋の米寿お祝の

会にはお脚こそ少しど不由にお見

受けしましたが、いつに変らぬ明

快な語調と元気なお顔つきを拝見

できましたし、日常一方ならぬご

撮生に加えていつも歩時計を身に

つけて健康の増進に努めていらっしゃること、数え切れない程多方面の

事業のお指図に日々お忙しそうで

まだまだお元気がつづき白寿をも

迎えられることと信じていた方も

まだかつたことと思われてなりませ

んでした。

石川先生のご日常の関係事業は

多くこの追憶号に掲載されている

お元氣は最後まで衰えませんでし

たが、ご帰朝後間もなくご結婚

になつた当時の元気ハツラツとは

格別でした。その当時の電気事業

は勃興期に入りつつありましたが

まだこの電灯会社の本社も古く

てささやかなものでした。京都電

灯も同じく先生のご帰朝になる二

三年前まで事務所は木造で、和服

に前掛け姿の主任さんが居るし、

京都電灯時代は最後まで殆んど

朝夕ご用を承わりながら指導を

受けける幸運に恵まれました。

京都電灯を離れてからも仕事の関係で

引きつきご教示を受けることが

屢々でした。なお先生が最近まで事

務所を設けて日々お通いになつて

いらしたのは、京都関電ビル(元

の京電本社)内でありまして、筆

者も同じ六階にある他の事務所に

席を与えられていたのでいつもお

序幕だけを思い出して見ました。

この文では殊更石川先生と申し

上げましたが、実は平素「石川さ

んと」と親しくお呼びかけしてい

たにかかるわらず故人となられた今

日では永年上司としてお仕えし日

常業務を通じて限りないご薰陶に

預った恩師であり又、講習所在学

中は眞実の先生であったので、自

然と先生と申し上げることにしま

した。

石川先生のご日常の関係事業は

かかったのは大正二年、先生が京

都電灯からの命で歐米に一年有半

の留学的視察旅行を終えて帰社さ

れ、工務課長の席につかれたと

きでした。当時の技師長小木博士

(後に石川先生の岳父)のご下命

によつて側近に置いて頂くことに

なりました。それから今日まで五

十六年公私共多大のご懇情に浴し

老後今日まで過し得たことは全く

先生のお影によるものです。とく

に京都電灯時代は最後まで殆んど

朝夕ご用を承わりながら指導を

受けける幸運に恵まれました。

京都電灯を離れてからも仕事の関係で

引きつきご教示を受けることが

屢々でした。なお先生が最近まで事

務所を設けて日々お通いになつて

いらしたのは、京都関電ビル(元

の京電本社)内でありまして、筆

者も同じ六階にある他の事務所に

席を与えられていたのでいつもお

序幕だけを思い出して見ました。

この文では殊更石川先生と申し

上げましたが、実は平素「石川さ

んと」と親しくお呼びかけしてい

たにかかるわらず故人となられた今

日では永年上司としてお仕えし日

常業務を通じて限りないご薰陶に

預った恩師であり又、講習所在学

中は眞実の先生であったので、自

然と先生と申し上げることにしま

した。

筆者がはじめて先生にお目に

会したのは大正二年、先生が京

都電灯からの命で歐米に一年有半

の留学的視察旅行を終えて帰社さ

れ、工務課長の席につかれたと

きでした。当時の技師長小木博士

(後に石川先生の岳父)のご下命

によつて側近に置いて頂くことに

なりました。それから今日まで五

十六年公私共多大のご懇情に浴し

老後今日まで過し得たことは全く

先生のお影によるものです。とく

に京都電灯時代は最後まで殆んど

朝夕ご用を承わりながら指導を

受けける幸運に恵まれました。

京都電灯を離れてからも仕事の関係で

引きつきご教示を受けることが

屢々でした。なお先生が最近まで事

務所を設けて日々お通いになつて

いらしたのは、京都関電ビル(元

の京電本社)内でありまして、筆

者も同じ六階にある他の事務所に

席を与えられていたのでいつもお

序幕だけを思い出して見ました。

この文では殊更石川先生と申し

上げましたが、実は平素「石川さ

んと」と親しくお呼びかけしてい

たにかかるわらず故人となられた今

日では永年上司としてお仕えし日

常業務を通じて限りないご薰陶に

預った恩師であり又、講習所在学

中は眞実の先生であったので、自

然と先生と申し上げることにしま

した。



営業課長時代の石川先生

和服着の社員も多かつたよう記憶しています。そんな時代ですか萬事新式とは申せませんでした。欧米の電気事業を具にしかも鋭く視察して帰国された先生は本社屋こそ当時のトップレベルの赤煉瓦三階建に代つていましたが、執務振りは若い石川先生には何から何まで立ちおくれが目について仕方がないようでした。例えば営業組織の古さ、内外線施工方法の非能率など満足できぬことが多かつたので、先ず業務の革新に飛びつくようにして手を抜けられました。お蔭で筆者などの側近者には色々と新しい命令が下ってきました。柱上作業には素人の筆者仰せ付かってストップウォッチを携えてチーラーの能率測定よしり、外線工事班について歩いて作業の一つ一つの所要人時を記録しました。柱上作業には素人の筆者

がコワゴワ高压配電線をくぐつて電柱の頂上に立つて見て工手達に笑われたり、煙たがれたりしたことありました。

京都電灯は後年電熱の開発で有名になりましたが、先生が工務課長時代から電熱に関心を示されニクロム線もない大正四年のご大典当时京都八坂クラブの招待会でかねて研究済の洋銀線を發熱線とした電気ストーブ一五〇キロワットの暖房を行つて貴賓、外国使臣を驚かせるという離れわざを成功させられた勇氣は敬服のほかありません。その後も發熱線を実際に運転しつづけた経験に先生は火力発電所で永年エンジンを実際運転しつづけた経験にい先生は火力発電所で永年エンジンを実際運転しつづけた経験に物を言わせインシケーターダイヤグラム測定器(寒馬力測定器)を自分で携えてエンジン使用の有力工場を何回となく訪問してダイヤグラムを作り、一馬力一時間当たりの燃料費を算出し換算電力量から費用とを比較し、電動機の特長を使用すればコレコレの利益があることを説明してやつと大工場の動力電化の成功を収められた。こんな実例ができるばあとは右えならえで動力電化が急に成果を挙げることができ、電力需要は急増し電灯会社は内容が電気会社に変化し始めました。同時に市内の煙突も退治され京都は一番早く煤煙が空一面黒煙に覆われていました。これはどこで都市でも同じことで、特に工業の盛んな大阪市内などは梅田駅(大阪駅)を下車すると見廻す限り

いました。これはどこで市民から感謝を受けたのは当然でした。その当時思い出されるのは石川先生の山高帽姿でした。當時礼装にはフロックコート(後にモード)を着て山高帽で同行していました。

ニングに変わった。正月の廻礼に

はエンビ服にシルクハットを着用する人もある時代でした。英國では山高帽を平素かぶっている人が多くなつたそうですが、日本では少かつた。電気教室の難波先生に次ぐ教授青柳先生は常に自転車を愛用していましたが、常に山高帽をおかぶりになつていました。青柳先生ご在世中よくお二人が山高帽で同行していました。お見受けしました。また石川先生は後年電気自動車の将来に着眼されて米国のデトロイト社の電気自動車(四面硝子で座席が高く、よくタカミクラなど云われています)を永く愛用されました。

蓄電池の発明者今は故人になられ島津源蔵翁も同時に輸入したこの車を常用されて居まして石川先生と好一対であります。古い京都市民の記憶に残っています。しかし石川先生は後年、外車ダッヂブラザーを電化した立派な電気自動車を作り、大正十四年秋父宮殿下のご試乗と自ら運転を賜わったこともありますしてこれを乗用されていました。

営業課長ご在職中

その後二年で営業課長に転じられました。電灯会社の営業は技術者が中心になつてやらねば積極的經營はできないというのが先生の持論でした。その以前の電灯会

社では技術員は職人扱いで地位が低く、事務員は且那衆の觀があつたので、科学的に物を処理するに抵抗がありました。先生の持論は當時の電気事業の先覚者である大沢善助社長の全面的支持を得て技術者の営業課長が誕生しました。当時工学士である技術者が発電所等の純技術を離れて営業関係に進出するなどということはなかつたのですが、その後この制度は追々盛んになりました。この点でも先生の前途を洞察する先見の明がうかがわれました。

先生は社内の営業組織及び執務上の改善にいろいろの努力を試みられました。その一例として電灯の点灯休廢灯その他の申込書の取扱が適切でなかったので申込書の運行順序を示す串団子式運行図を作ることになり、試行改善に可成りの日をかけて完成したので営業料金台帳、集金、保線に到るまでの本社と営業店間の運行を合理化して正確敏活を期することができます。筆者も當時何ヶ月かは団子造りの日を送りました。先生はその他営業發展の基盤造りを着々実行されました。

営業部長ご在職中

先生はその翌年営業部長に就任されました。が、直ちに営業技術

照明と電熱の推進に大きな努力を
払われました。どくに照明では屋
外照明のなかつた時代に四条通に
立派な街路照明柱を建設して外国
から來た専門家にも名聲を博しま
したが、鈴蘭灯の如き全国を風び
しました。

る當工業電熱に関する論文、電気料金制等があります。

無二に走りつづけて漸やくその晝
を果すことができました。その代

い乍ら益々ご繁昌のようでした。

いで三高に入学、二十六才で卒業されて同年京都帝国大学電気工学

このほか京電は福井方面で開発する電源開発に電気化学工場を經營する積りであったので、化学工業部ができ先生は部長を兼務し京都に試験工場を建設經營されたの

り大小となく一方ならぬご指導を得たことは勿論でしたが、又一方では社内の各方面から多数の英才と腕ききを撰抜配属して頂いてどんな用事でもこなせる態勢ができ

事のやり方と努力の精神を何くわ
となく教えて頂いた有難さは計り
知れないものがあります。

科に入学されました。高等学校ご卒業後は夜間勤務をやめて大学は貯蓄された学資金を以て専心に勉学されたことは有名な話です。これが当時の苦学でありまして、珍

ない時代ですから先生の自宅の台所を実際に電化して活きた見本にし多くの見学者を誘致して普及につとめ、文化人から一般家庭に及ぼされた。この運動は先生が後藤新平伯（逝去後清浦奎吾子爵）を会長とする家庭電気普及会を創立、全国電灯会社と協力して広汎な普及運動を開いたいに成果をあげられた。その当時から先生の対外活動は愈々盛んとなり、逓信省、電氣協会、諸学術団体と協同して各種の活動を開始され電氣事業法規、電氣技術、電力需要開拓について電氣界のリーダーとして目されてからしまった。家庭以外の電熱は

先生は何によらず自信が強く実行力おう盛でしたから、外国でやることは日本でできないことはない。逆に日本で独特のものを作つて外国にも日本の善さを見せてやろう。このためにはできるものはわが社で手をつけよう。これが京電のためであり眞の愛国心の發露であると考えていたらどうです。従つて社内に勇気のある努力型の人材を養成しようと努力されました。先生の事業欲は無限でした。またこれが先生の唯一のご趣味のようでした。

現在関西電力の副社長である加藤博見さんのような俊才が調査課課長となり、設立時から一緒に働いて貰い拵充後は調査課長として協力して頂いたお蔭で、非力の筆者がどうやら大過なく過ぎて先生の所期の目的を達し得たと今でも感謝しています。

れて小言を頂戴したり、加筆されたりがっかりしたことや筆者も墨々ありましたが、よく熟読して見ると当方の注意力と思慮の足らなさにつたことが多く、時に叱責に似たことでも人の教育が目的であったので、これが仕事上の厳しさであつたと悟りました。しかしご本心は實に思いやりの深い方であります。したがって個人問題についてもよく相談にのつて行届いたお世話をされておられました。女秘書の方は良い配達者をお世話になり、後々までも親子のような関係をいつまでも続けていられるのを見受け

は大きな違いがあるようです。か
ようにご自身は勉学のためご苦労
になつたので、勉学者に対し大変
ご同情があり、私費を投じて通学
を援助された方は可なり多く、今
も社会的有用の人となつてゐる方
が多いと聞いております。

先生のご最後はあまりにも突
然でお悔み申す言葉もありません
が、平素先生から「自分は最後ま
で世の中のためにつくして安樂に
死にたい」と承わつていましたが
果して平素のお覚悟通り大悟徹底
されて何の思い残すこともないよ
うな安らかな永遠の睡りこつかれ

八つ橋焼、饅焼、湯葉製造のよう
な営業用電熱器から、染織工業用
陶器上絵付錦窯等の工業電熱器百
種を超ゆるものを数年の間に全国
にかけて開発されました。詳細は
先生著述「工業電熱」に纏められ
ています。序でながらほかに先生
の著書は生活改善と電気、世界動
力会議東京部会誌中、日本におけ

社の本業の製造を始めた幾多の企画と全社的新事態に處して、この実行を先生の意の如く適切且つ迅速に行うため、昭和七年調査課（後昭和十二年調査部に拡充）を作られ筆者は一時に随分多種多量の業務に当らせられましたが、先生という一流のマラソン選手について走る二流選手のように遙二

大學を京濱電鉄前後で先生は外男の仁
事が益々増加してご逝去の日まで
この活動は続きました。先生は人
から頼まればいやしくも世のため
めになることは何でもお引受けにな
り、受けた以上徹底的に親切に
お世話になり、大局を誤らぬ適切
なご指導をされたようです。これ
ではサービスボイだとか、また
ときどき少し数を減さねば…と云

けます。
少年時代からの苦学力行
先生は少年時代から独立心の強
い方で、十三才の少年から東京電
燈、静岡電燈、名古屋電鐵の発
電所へ勤務をしながら勉学、二十
才に京都電燈技手となり、夜間は
発電所勤務をして、昼間同志社中
学に入學、二十三才でご卒業、つ

ました。そして各階層の方から惜まれながら百万人の京都市葬により萃かに人生の幕を閉ざされたことはご満足でありますよう。このご幸福はご戒名「積功院累徳芳心居士」の示す通り積み重ねられた功績と施された功德より来るものと存じます。

誰にとっても必ず必要なのは暮しが立つということで、そのため働く者はみんな勤労している。ところが職種がその人に合うとか合わないとか、勤労条件が満足か不満足などの問題を遙かに越えて、雇傭そのものが実に難しいとされているのが失明者である。だから中途失明者は眼が見えないと以上に、生活の手段に心を痛める。

もし、人が人生の半ばで失明すれば、どのような職を再び選んで自活の道を立てたらよいのだろうか。これまでの社会の習慣では、失明すれば“あんま”になるのが常道とされてきた。失明者の生活手段はこの細い一すじの綱に限られ、失業対策事業さえも与えられないものである。あんまのできない人は他に適当な職も求めにくく、結局は妻子や兄弟に扶養され、一室にとじこもって長い人生を送つてゆく。

私も十数年前思いがけなく原因不明の病にかかるて失明して終つた。その時二、三の方々よりせひあんまを習つて自活の道を立てるようにお奨めを貰いたが、當時の弱っていた体力ではあんまの修業は無理であった。色々と苦慮した末、非常に難しいのは覚悟の上で技術の道で生き抜こうと決心した。そして工業用機器と設備の経

済化をテーマとして調査、研究を始めた。畏友大谷教授は論文の指導を引受け下さった。そして十年後幸いにも母校より工学博士号を受けられたとき、正直な話これまで社会復帰ができるように思われて内心ホッとした。しかし、そう願いつつ月日は経つても二年半になる。

私は昨今著述に励みながらづく思はれてならない。あんまは平安朝の昔発明された治療法と言わっている。その頃はもちろん工業といえるようなものは何一つない時代であった。

それから千年、いまや地上には何百

万台の自動車があり、空には数百人の乗客を乗せるジ

エット機が数日間で地球を廻り、世界中の出来事はテレビのスイッチをひねれば居ながらにして見られる時代になった。人々が従事している職種は平安朝時代の何千倍何百倍に達しているであろうか。

そのなかには、盲人でもできる仕事を數々あるのに、社会的な受入態勢促進の政策が打出されて来ない。世の中には十年、二十年の後もあんなふうなことはあるが、夢にも思えないような数世紀の後これがここにある。

失明者の生活問題を訴える

昭和十一年卒 桜井八太郎

盲人の雇傭を免除してもらえるが、その代り莫大な免除料を納める仕組

ける盲人の生活方法を調べてみた。意外なことが多いのに驚嘆した。アメリカでは人の行き交うプラットホームで盲人が売店を開いており、会社を訪れるそこの重役秘書が盲目的女性であったり、街では盲人が弁護士を開業していたりするという。このような風景はわが国では全く見られないが、アメリカでは普通のことであって話題にもならないと言う。このように勤労が一般化していると共に盲人が助けようとする気風が強いようである。アメリカの身体障害者の割当数を引受けない事業所は盲人の求職者を受付けると、この人々の雇傭を役所や会社に割当てる。割当数を引受けない事業所は新卒やその他一般人を雇うことが認められない。もっとも、盲人に出来ない仕事しかない事業所は

盲人の雇傭を免除してもらえるが、その代り莫大な免除料を納める仕組である。この金は身体障害者の職業を確保するためを使われる由である。もちろん失明の身で職業につくためには人一倍激しい訓練を済ませねばならないし、それに耐えて特技を身につけることは身体障害者の義務である。給料は能力給で低いが、これに福祉年金を加えると、乏しくても安定した生活が保障されるといふ。

ソ連に於ける盲人の職業対策はヨーロッパ同様行届いていて更めて言うこともない。さらにインドに目を転じると、そこでは多くの

私は参考のために世界各国に於

くる盲人の生活方法を調べてみた。意外なことが多いのに驚嘆した。アメリカでは人の行き交うプラットホームで盲人が売店を開いており、会社を訪れるそこの重役秘書が盲目的女性であったり、街では盲人が弁護士を開業していたりするという。もっと驚かされることもある。アメリカ以上に失明者の援助によって方々に建てられた盲人の求職者を受付けると、この人々の雇傭を役所や会社に割当てる。割当数を引受けない事業所は新卒やその他一般人を雇うことが認められない。もっとも、盲人に出来ない仕事しかない事業所は

盲人の雇傭を免除してもらえるが、その代り莫大な免除料を納める仕組である。この金は身体障害者の職業を確保するためを使われる由である。もちろん失明の身で職業につくためには人一倍激しい訓練を済ませねばならないし、それに耐えて特技を身につけることは身体障害者の義務である。給料は能力給で低いが、これに福祉年金を加えると、乏しくても安定した生活が保障されるといふ。

ソ連に於ける盲人の職業対策はヨーロッパ同様行届いていて更めて言うこともない。さらにインドに目を転じると、そこでは多くの



第十八回洛友会総会通知

一、日 時
五月二十五日(日)午前一〇時半より

受付開始

二、総会及び懇親会場

名鉄グランデホテル 電 (052-582-2211)

名古屋駅表(東)玄関南約五〇米
名鉄バスター・ミナルビル十一階

三、総会 午前十一時二〇分より開会

議案

- 一、事務並に会計報告
- 二、昭和四十四年度予算審議
- 三、会則一部変更の件

四、懇親会

十時より午後一時迄 昼食

十三時半 名鉄バスター・ミナル発

十四時四〇分 明治村着

十六時二〇分 明治村発

十七時三〇分 名古屋駅着散会

十六時三〇分 明治村発

十七時 犬山白帝閣着(宿泊)

B班は翌二十六日犬山附近を見物する方と、

ゴルフ希望者に分けられる。

ゴルフは犬山カントリークラブ午前八時半ス

五、会 費

会員及び家族同伴者歓迎

昭和四十四年度卒業者
但しB班の宿泊費その他

自弁

六、会長はじめ諸先生方が多数出席されます

会員及び家族同伴者歓迎

一、〇〇〇円
五〇〇円

音
編集後記

大3	浅村 啓三	44	1
大8	村田 義人	43	12
大9	芝間条次郎	44	2
昭2	村松堅三郎	44	2
昭40	越智 昭文	43	26
昭40	芝間条次郎	44	2
昭40	村田 義人	43	12
昭40	村松堅三郎	44	2
昭40	越智 昭文	43	26

(幹事山本)

電気界のトップをゆく電気総合月刊雑誌 **電気評論** B 5判・本文100頁・定価250円・**18円**

4月号内容

- 【一般論文】 ①広範囲停電の防止について
②γ線ラジオグラフによる電力ケーブルと附属品の撮影法・その他
- 【シリーズ】 電気掃除機・コンピュータとその適用
- 【基礎講座】 自動制御システム(8)
- 【マンスリー】 1300KV級送電線の各種設計案について・その他

5月号内容

- 特集『電力設備運転保守の自動化とエレクトロニクス』
- ①電気事業におけるエレクトロニクスの応用
②水力発電設備 ③火力発電設備 ④変電設備
⑤送電設備 ⑥配電設備
(東京・東北・北陸・中国・中部各電力会社)